

港湾工事における大規模仮設工等に関する技術検討委員会  
成果のとりまとめ方針（案）

- (1) 本書は、施工時に複雑な施工手順や大規模な仮設工が採り入れられる港湾の施設の整備事業（以下、特殊施工を伴う事業という）の参考となるものとする。（一般的な規模・構造形式の施設整備であっても、施工時の安全性に関して重大な課題があると考えられる案件も対象とする。）
- (2) 委員会での議論において、設計と施工の連携や、設計・施工にあたる技術者の情報共有が不十分である点などが指摘されているため、本書は設計・施工に携わる全ての技術者を対象とする。
- (3) 本書は、委員会の成果イメージを技術者が参照するテキストブックとし、総論（一般論）として設計・施工の一連の考え方（フロー）を示した上で、事例研究に基づく知見を検討事例という形で組み込んだものとする。
- (4) 本書は、技術検討の不足に関して、技術者に検討の必要性や方向性を示すため、総論的なとりまとめとするが、具体的な理解を促進するため、代表的な事例を掲載するものとする。
- (5) 本書は、設計と施工の連携に関して、委員会及びWGを踏まえて検討した以下の項目を主要構成として作成する。（前半に設計・施工の思想を記載し、後半に事例検討を掲載する構成とする。）
  - 1) 施工過程を考慮した設計
  - 2) 種々の基準類を援用した設計
  - 3) 設計条件を考慮した施工及び施工管理
  - 4) 配慮すべき施工過程と安全性の検討の例
  - 5) 施工・施工管理における情報化技術の活用例
  - 6) 事例紹介※新規の構造形式を導入する際の考え方を記載する。
- (6) 本書の具体的なアウトプットイメージは資料－５のとおりとする。